

# 港北区災害ボランティア連絡会ニュース

事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸 13-1 吉田ビル 206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561 mail info@kouhoku-saibora.net

HP <http://www.kouhoku-saibora.net>

2016年10月

\*入会は随時受け付けています。あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください



横浜市港北区ミズキ

## 太尾防犯拠点センターの 災害時活用訓練から見たこと

区からの提案による太尾防犯拠点センターを災害時にどのように使えるかの訓練が9月28日に行われました。前夜から大雨で、なんと区は災害対策本部を設置した中での訓練となり、予定が大きく変わりましたが、災害時に突発的な出来事はつきものですから、そこから教訓を汲めば良いことです。事実、区とのやり取りでは防犯センターの開設連絡がなかなか来なかったり、無線機の扱いで上手な伝達が出来なかったり、などがありましたが、反省点としてそれぞれ次回以降に改善できると思います。何よりも区と地域と合同で出来たことに一番の成果があるでしょう。訓練で訪問した大綱小学校では校長先生が大変関心を持って下さいました。今回をきっかけにして地域と具体的につながった訓練を重ねていきたいと思っています。



太尾防犯拠点センターでボラセン会議

### 当日の反省から

区担当からも「やって良かった」「訓練を重ねていきたい」との言葉が寄せられました。さて、会員の反応は？

**【情報の受発信について】**「少し出来た」「うまく出来た」が殆どでした。情報受発信に関わらなかった参加者もいますから「ほぼ全員出来た」といえます。無線独自のルールではまだ未熟な部分もありましたが、それは訓練を重ねれば簡単に改善できます。MLは写真やムービーも送れる点で優れていることが確認できました。

\*災害時の情報伝達手段は二重三重の回路が必要です。まずは今回手がけた無線とMLを使いこなせるよう習熟しましょう。

**【情報整理法について】**地図に情報を落とし込むのは分かりやすくて良かった。しかし港北区全体にすると相当大きくなるので、その点をどうするか要検討課題です。

**【ボラセンの役割について】**本部は「分かった」が多く、支部は「少し分かった」が多かった。支部を作るのは初めてのことで、しかも時間が1時間ほどと短かったため、分かりにくいところがあったのは仕方ないでしょう。しかし学校訪問をしてボランティアセンター開設の案内チラシを配ったり、太尾防犯拠点センターの災害時使用の注意書の見本を作ったり、と具体化できた点は良かったと思います。

**【その他良かった点】**外に出て動いたこと、無線機使用。

**【改善点】**立ち上がりが混乱していた、区からの全体被害情報が上がってこなかった、太尾防犯拠点センターの災害時の位置付けをもっと早く教えて欲しかった、太尾防犯拠点センターの使用許可の連絡が区から来るのが遅くなってしまった地図への情報の落とし込み方を研修する必要がある。

## 本部、支部担当から

### 写真送信の威力を知る ー本部にてー

ボランティアセンターでは、本部担当と情報担当に分かれて、無線機による情報受伝達訓練と地図への情報掲示訓練を行いました。

本部担当は3名。無線の送受信と通信内容を災害・被災情報カードの記入訓練を行いました。

無線通信のやり方はアマチュア無線協力会の高野さんにいろいろと教えていただきました。

複数の無線機で同じチャンネルを使用している場合のポイントです。

●通信開始のときは、呼び出し先をはっきりコールすること。

●相手の送信を要求する場合は、最後に「どうぞ」と付ける。

●送信内容が聞き取れたことを知らせるために、内容を復唱する。

●通信終了のときは、「以上です」と付ける。

無線機が初めての方も多く、発信元、受信先をコールしない通信や無線機に口を近づけすぎて音声割れて聞き取りにくい通信も多少ありました。このような訓練を今後も続けて、無線機に習熟するとよいでしょう。

情報担当2名は、本部担当から渡された災害・被災情報カードの内容をポストイットに転記して、ホワイトボードに貼られた地図の該当する場所に貼り付ける訓練を行いました。聴覚障害のある方に地図にポストイットを張る作業をしていただきましたが、障がいのある方でも作業を選べば、ボラセンのスタッフとして働いていただけると感じました。

パソコン担当は皆さんのスマホから臨時メーリングリストに投稿された写真や動画を受信し、写真を印刷して掲示しました。文章より写真や動画は圧倒的に情報量が多いので、実際の災害時に大いに役立つと思いました。(山本正史)

### 子どもたちとのまち歩きにつなげたい

9時に区社協に集合して、センター設営と打ち合わせ。さっそく、拡大印刷された地図が見にくいなどの、問題が発生！手描きで書きわえていき

ました。要請を受けて2班に分かれ、2つのルートで「支部」に向けて出発。手元のスマホで目的地を検索、確認して出発したつもりでしたが、かなり迷走。案内するはずが、案内される始末となりました。

初めてのトランシーバーによる無線交信で、自分の名前を伝えられなかったり、交信する相手を指名できなかったりしながら、災ボラののぼりを持って商店会を行進。メーリングリストを利用して、状況写真を送ったり、やはり実践は大事！やれること、困難なこと、などが想像できました。到着した支部センターからは、近隣の小中学校といった避難拠点に「ボランティアがお手伝いします」と書かれた広報をもって往復。一部の学校では、校長先生にも主旨を説明できたようです。とにかく、日頃からこういった顔の見える関係を作っておくことが大事なこと、実践訓練を繰り返し、もっと周囲の人々に災害時の課題を知ってもらうことが大事なことを実感しました。個人的には、無線交信が面白かったので、地域の子どもたちも巻き込んで、「無線でまち探検」ができれば、良い防災訓練になるのではと思いました。

(鈴木智香子)



無線で途中の状況を報告  
被災情報の収集に役立つ

### うれしかった連携

今回、港北区役所と港北区社協の全面的な協力のもと、太尾防犯拠点センターとの訓練が行われた事をうれしく思います。なにより度重なる事前の三者打ち合わせで顔の見える関係が築けたように見受けられます。訓練開始時に自分の操作ミスで無線機1台のセッティングに時間が掛かり慌てました。非常通信協力会の高野氏の機転で事無きを得ましたが、ハード面での準備と共にいかに冷静でいられるか改めて実感しました。現在シミュ

レーションタスクを中心にボラセン開設の文具や書類の準備は進んでいますが、今回のように支部センターを開設する場合には持ち出し品の準備（リストでもOK）も必要だと訓練を通じて発見しました。また、区災対本部からの被災情報やニーズのやり取りにはかなり手間ひまが掛かるようです。そしてボラセンで収集した被災情報をいかに支部センターが共有するか、要検討です。

今回の訓練には都筑区、南区社協や南区のボランティアの方々のご参加をいただきました、ありがとうございます。これからDブロックなど他区との協力体制もゆっくりとしっかりと築いていきましょう。こちらもこれから模索していきます。  
(小澤美津子)

## 9月定例会報告

日時：2016年9月21日（水）10:00~12:00  
会場：港北区福祉保健活動拠点  
出席者：港北区災害ボランティア連絡会、あじさいの会、梅の会、篠原地区ボランティア連絡会、富士塚ボランティアグループ、ガールスカウト21団、国際救急法研究所、ボーイスカウト8団、ペガサス、港北区聴覚障害者協会、横浜北部失語症友の会、ミエル、びーのびーの、個人会員6名、事務局：矢崎、片桐、藤原、区総務課：林、杉本、厚地、ボランティア班丸山

最初に白井会長挨拶

## 審議事項

1) 9月23日太尾防犯拠点センター訓練について  
訓練目的：センターの活用方法、大倉山町内会との連携、無線やMLを使っての情報の受発信  
発災は9月20日と想定、雨天実施。2ルートに分かれ、太尾防犯拠点センターに向かう途中、無線やMLで地域情報（被害の様子）をボランティア本部に送る。本部はそれを地図上に整理する。区からも地域の被害情報の提供を受ける。太尾では配置図を検討、ボランティア役を地域（大綱小、太尾小、大豆戸小、どろっぶ）へ派遣する。  
集合9時、訓練開始10時、  
2) 11月27日（日）セミナーについて  
常総市、染谷さん決定。コモンズ横田さんにも連絡中。

## 3) ハンドブック読み合わせ

「12：誘導・受付・登録担当」から「13：保険担当」まで。ボランティア保険加入では保険金の授受は避ける方法で再検討

4) 災害手話「久しぶり」「9月1日」「台風」「増水」など

## 5) 参加者確認

10月16日（日）ミニらくらく市

10月22日（土）港北ふれあいまつり

10月28日（金）ほくほくフェスタ

10月29日（土）カーボン山感謝祭

11月11日（金）～13日（日）新田地区センター

6) タスクごとの話し合い 以上

## 役にたつ災害本

### 「東京防災」 東京都編

東京都が都内全家庭に配布して、住民に地域での読み合わせ会を勧めたことで話題になった本です。

大地震発生時のシミュレーションから始まり、その後の避難生活から生活再建にまで簡潔に書かれている点は

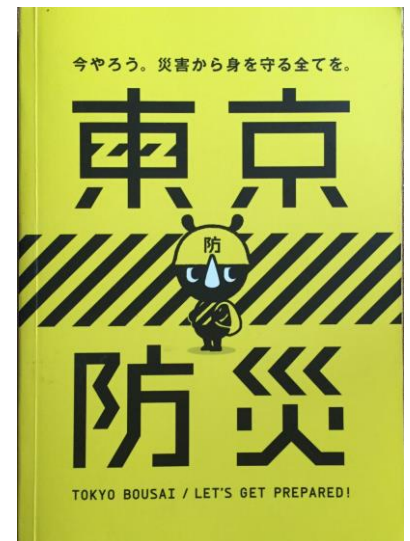
参考になると思います。知識をチェックするためのクイズが豊富なのも便利です。

挿絵のような後悔をしないためにも、必ず来る



大地震に備える必要があります。そのための参考書になります。都の出版物なので130円という値段もうれしいです。東急ハンズ

などで入手できます。



# 災害の食を考える その1

災害に日常から無理なく備えましょう

## 回転備蓄「食べ回しながら備蓄する」

長期保存が効く缶詰や乾パン等の非常食を、消費期限迄食べずに置いておくのではなく、日常的に食べたらいし、常に新しい非常食が備蓄されている方法を回転備蓄といいます。

缶詰、レトルト以外に、常温保存が可能な乾物、根菜等を、常に余分に用意し、食べ回しながら備蓄する事で、賞味期限切れで廃棄する事も避ける事が出来ます。長期短期の賞味期限に合わせ食品の定期的な入れ替え日を決めましょう。

災害時用でなくても調理できるバリエーションを増やし、繰り返し、作り慣れることが大切です。

## 備蓄は数か所に分散

- ・家の損壊に備え、1箇所にとまらず、屋外等にも保管場所を工夫しましょう。
- ・水に濡れても大丈夫な物に入れ、災害時に分かり易い場所に置きましょう。



## 発災日からの災害食のメニュー例

(日本災害食学会作成)

## 調理用品も一緒に

- ・ポリ袋、ラップ、アルミホイルも準備・・・食器にかぶせて使えば洗浄なしで使え、体に巻き防寒

対策、包帯にもなります。

- ・IHクッキングヒーター・カセットコンロ
- …電気は復旧が早く火気厳禁でも調理可能。ボンベは1本が1時間使用の目安です。
- ・キッチン鋏・缶切り・鍋・箸、スプーン、ウエットティッシュ等も備えておきましょう！

(小松尚子)

## 危機管理産業展2016

10月19日(水)～21日(金) 10:00～17:00

東京ビッグサイト

昨年研修で参加したものです。

毎年新しい物が発表されます。

## ☆減災アイデア募集☆

皆様のご家庭で実行している減災対策を教えてください。写真と説明付きをお願いします。送付先 編集部宇田川まで

[n.udagawa@mac.com](mailto:n.udagawa@mac.com) へ

## 今月の定例会

10月19日(水) 18時30分～

夜間開催です。

お間違いのないようにご参加ください。

## 編集後記

☆岩手・北海道の豪雨被害では北海道でのボランティア不足が深刻です。報道量の違いでボランティアの参加が変わってきます。ボランティア頼みの復興のあり方を変えなければいけません。(宇田川)

☆今年度から町会の役員になったので、高田地区の運動会のお手伝いをしました。日頃から近隣の方々と、顔の見える関係を築いておくのは、いざという時にとても大切だと思います。(山本)

☆「ツールド三陸2016」のボランティア参加し、初めて陸前高田で「民泊」を体験しました。受け入れ家庭といい、イベントのエイドステーションでおにぎりや豚汁を作ってくれた地域婦人部の方々といい、温かい方ばかり！また新しい魅力に出会う機会となりました。(山口)